

絵:ありむら潜



編集協力：大阪市立大学 西成情報アーカイブ

目次

【総論】 日本一・本邦唯一が満載の大阪ループ・サウス（大阪環状線の南） … 4

【日本一シリーズ】

① 鉄道	6
② 太子・山王	7
③ 阿部野橋駅・天王寺駅界隈	8
④ 新世界と通天閣	9
⑤ 阿倍野再開発事業	10
⑥ 天王寺公園	11

【釜ヶ崎周辺の地域誌】

江戸&明治期の紀州街道にタイムトリップ（新今宮界わいの原型）	12
「鳶田」の江戸期から明治初期までを掘り下げる	14
新今宮駅周辺もう一つの磁力 山王・太子地域の江戸時代から大阪大空襲まで～飛田新地含む～	16
*飛田遊郭の形成についてはP33の「よくある誤解Q&A」もご覧ください	
20世紀初頭の職工住宅（電光舎燐寸工場）の謎に迫る	18
神社仏閣名所旧跡どっさりが関西を私鉄王国にした	20
「星野OM07」の敷地の系譜	21

【スポット回顧風景 in 釜ヶ崎／あいりん地域】

あいりん総合センター敷地周辺＜南側＞の1960年代の風景	22
あいりん総合センター敷地周辺＜北側＞の1960年代の風景	24
三角公園（萩之茶屋南公園）の変遷～70年代に大きな利用転換があった～	26
市民館一帯の戦前・戦後（貧困児童を受けとめた徳風小学校）	28
60年～70年代のあいりん小・中学校から現・いまみや小中一貫校への変遷	30
高架鉄道に囲まれた城塞都市釜ヶ崎	32

【釜ヶ崎よくある誤解Q&A】

- ① 長町スラム丸ごと移転説
- ② 飛田遊郭と釜ヶ崎の関係
- ③ 「丸ごと釜ヶ崎」観

【More Information】

釜ヶ崎のまちスタディツアーの案内	34
地域のみなさと共に 萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社	35
あいりん地域地図（『センターだより』より転載）	36

わたらが案内します

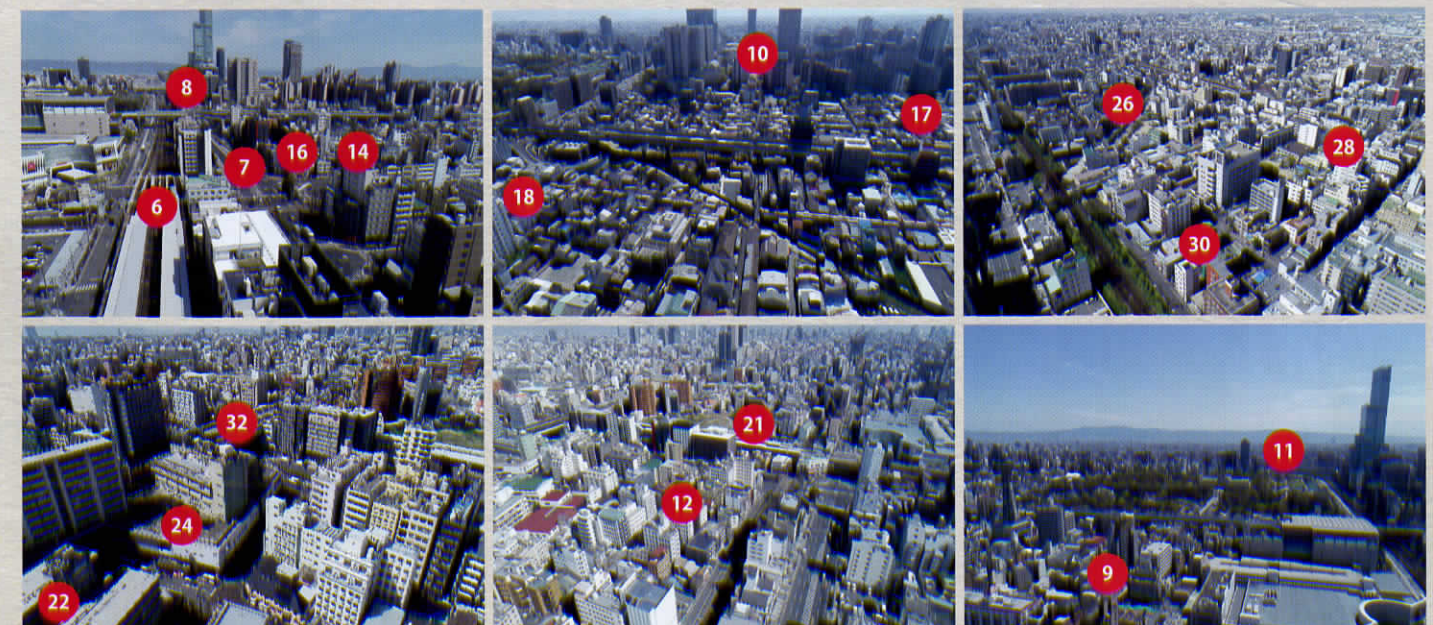
編集スタッフ：

イラスト：

編集協力・資料提供：

水内俊雄（大阪市立大学都市研究プラザ・兼 文学研究科教授）
吉村智博（大阪市立大学特別研究員・西成情報アーカイブ学芸員）
ありむら潜（漫画家、萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社・まちナビ事業部責任者）
ありむら潜
有限会社 CR-ASSIST、水内俊雄ゼミの学生のみなさん、釜ヶ崎のまち再生
フォーラム、小林由紀、西口宗宏、山田純範、高田幸一郎、加藤政洋、三條場正博、
松繁逸夫、大阪市立大学地域連携センター（西成情報アーカイブ）、
大阪市立大学都市研究プラザ、南海電鉄（株）、大阪府立中之島図書館
大阪市立中央図書館、国立公文書館、国際日本文化研究センター

天王寺駅から新今宮駅までの地図・写真と頁番号との対応



日本一・本邦唯一が満載の 大阪ループ・サウス



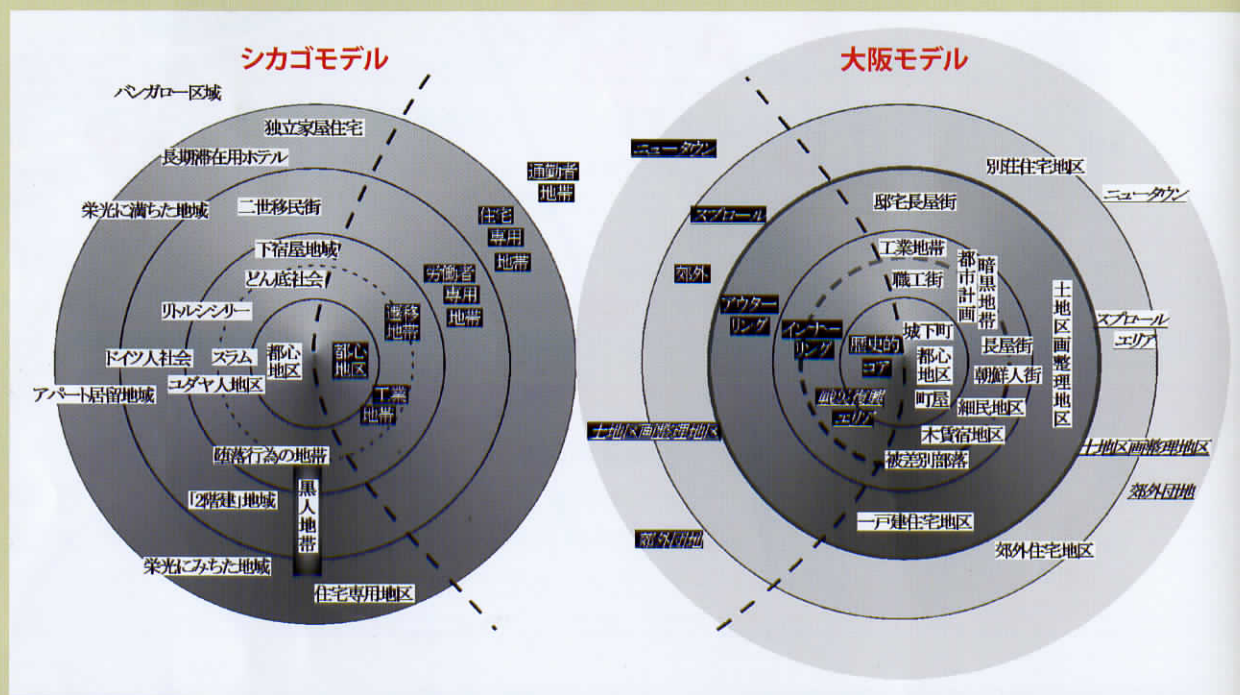
ループラインゾーンが面白い

大阪ループ・サウスとは大阪環状線、サウス、その南とは鶴橋から天王寺を経て、大正駅くらいまでであろうか？ 持論だが、ループラインが面白ければ大都市は大変魅力のある光陰のひだを見せるのが常。都心部、歴史的コアをぐるっととりまくインナーリングは、近代、20世紀初頭に資本主義化、工業化、商業化的拡大発展をまるごと請け負ったエリアであった。ふつつつとたくましくダイナミックに、ループ・サウスは多様に発展してきた。

欧州都市はロンドンやパリ、ベルリン、ウィーンをみるまでもなく、城壁都市の周りで近代期に都市化し、アメリカではシカゴの、環状線高架鉄道「L」(Elevatedの略)に囲まれた都心地区のループが有名である。ループに走る「L」に囲まれた地域の名称ではあるが、このループの線が面白い。中段左図の中心「歴史的コア」を描いているが、東京で言えばこのコアをぐるっと囲むループが山手線であり、名だたる副都心が今では東京の最大の魅力を発信している。名古屋は南半分の円弧で、名駅から金山、千種、大曾根、京都は市電の外周ループにそれぞれ繁華な魅力スポットが点在する。学問的には、下図にあるように都市は年輪を刻むように同心円状に個性のあるリングやセクターが成長し、それがシカゴ学派と呼ばれる都市社会学、バージェスの都市の同心円構造理論を生み出した。ループは研究に新しい素材を常に与え活性化し、教育のスタディーフィールドとしても、魅力的なエリアであり続けたことは言うまでもない。

都市形成の 同心円モデル →

左側はアメリカの都市社会学、バージェスがシカゴをモデルにして提唱した都市形成の同心円モデルである。右側は大阪をモデルにした水内による大阪バージョンの図である。他にも扇型のようなセクターが入り込むモデルなども提唱された。ここでの注目ゾーンは、都心地区を取り巻く第2ゾーンのインナーリングである。大阪環状線のループラインや、山手線が走ることになる。



出典：水内俊雄ほか『モダン都市の系譜』ナカニシヤ出版、2008年、63頁所収の図より



↑ 日本で鉄道がループとなっている事例

今までは地味やったけど、今は注目地に

東京のループ山手線に比較すると、大阪の光は、地下鉄の御堂筋線から発せられてきた長い伝統がある。大阪のループは、梅田と天王寺を除き、乗換駅的な要素が強く、ループラインの京橋、鶴橋、天王寺などは庶民的なにおいの濃い地味なエリアであった。右図のように、私が名づける「マイノリティの三日月地帯」を形成していた。命名の由来は右頁下(※1)に書いている。鶴橋は在日コリアンの集住や国際マーケット、新今宮は日雇い労働者の最大の労働市場、日本最大の簡易宿所街、今宮、芦原橋は部落解放運動、同和事業のメッカ、大正は沖縄出身者の集住といった、マイノリティでエスニックなエリアの玄関口駅でもあった。1990年代にはこうしたエリアは今までの地味なイメージから、まちづくりの先進的取り組みやエスニックという冠を持つことにより注目を浴びはじめ、さらに2010年代には、韓流ブームでのコリアンタウンの隆盛、インバウンド旅行者の増大、新今宮の国際化などで一気にパワーアップした。

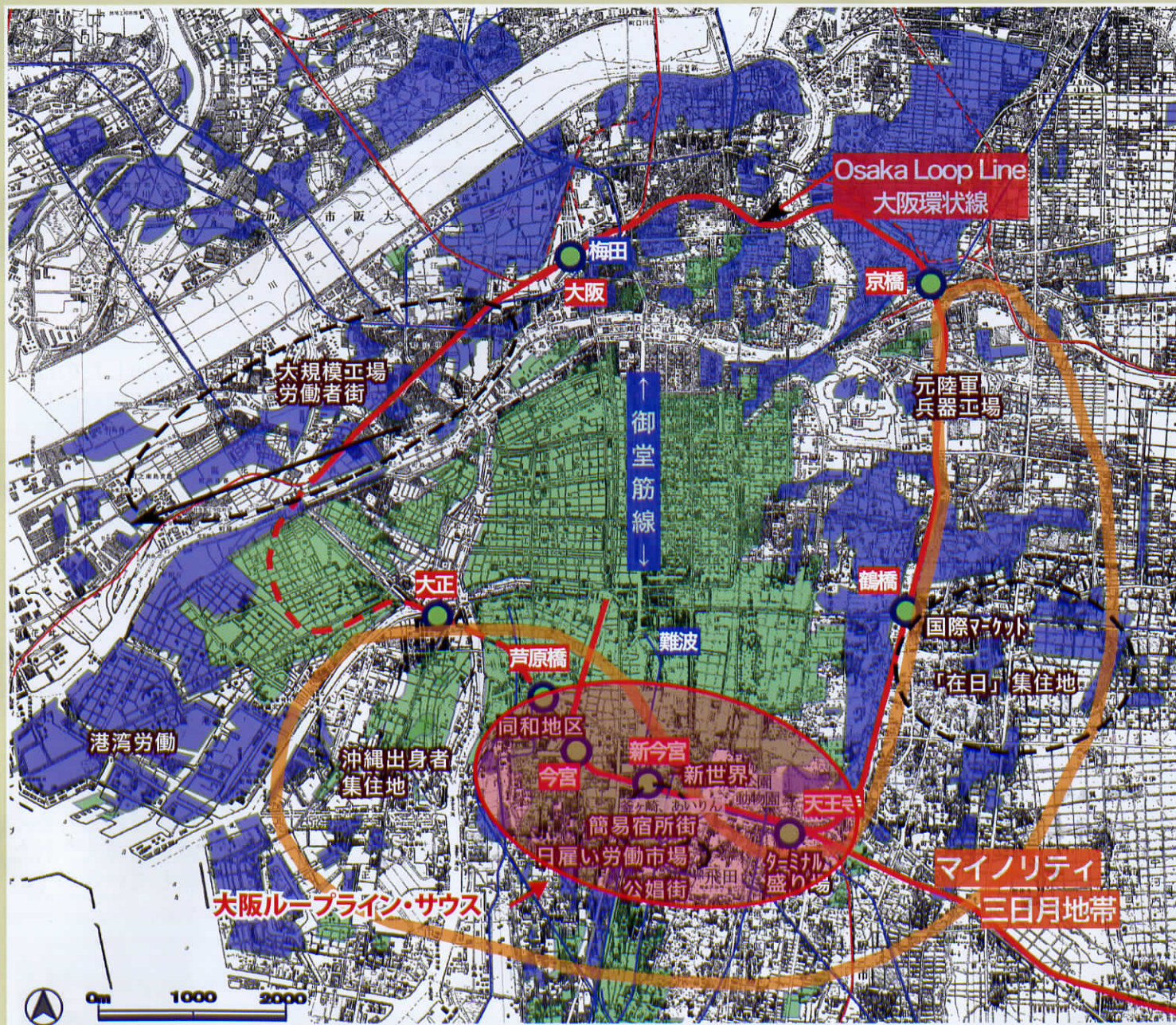
<http://www.narinari.com/Sp/2004100946.html>

建設年次からして、都市発展におけるインナーリングを走っているのが山手線と大阪環状線になる。

大阪環状線の南

「日本一」や「唯一無二」がラインナップ

副都心でありながら梅田や難波に大きく水をあけられていた天王寺・阿倍野地区は、ハルカスに代表される近鉄の駅ターミナルと周辺再開発や、あべのキューズモールなどの再開発地域の事業完了、天王寺公園のリニューアル、タワーマンションの相次ぐ建設などで、インバウンドブームにも支えられ、発信度が大きく高まった。ループラインの最南端天王寺駅から一駅西の新今宮駅にかけて、地理的につながる形で、「日本一」を冠する、あるいはそれに匹敵するユニークな事象が、新たな「地力」や「磁力」を発揮し始めた。これほど「日本一」のさまざまな特質を発揮するネタの集中するゾーンは、日本広しと言えどもここしかない。その由来や特質を簡便に紹介したのが本誌である。ちょっとした「学びのツーリズム」を、冊子を片手に楽しんでいただきたい。



↑ 大阪市のインナーリングとマイノリティの三日月地帯 (凡例は下記※2参照)

※1 パリ北東部の「赤いパンリユー(郊外)」が、移民が集住してベルト状をなしているというジョン・ポール・ド・ローヴェの言い回しと(『パリの社会学』)、メソポタミアの「肥沃な三日月地帯」をかけあわせて、水内が大阪の南部に命名したゾーン名である。本企画では特に赤く囲ったエリアが、まさしくループ・サウスにあたる。

※2 基の地図は、1947年編集の空襲後の焼け野原の大阪の状況がわかる地形図を利用している。赤色は3月14日の大空襲で、茶色は6月1、6、15日の大空襲で焼失しているエリアである。焼失エリアは、地形図上では白くなっており、黒いところは焼失を免れたエリアである。また記載した事象は、1960年代から70年代初頭の大阪の当該地域の社会事象を、描いたものである。

この図は、水内俊雄「在日、釜ヶ崎、部落、沖縄—大阪マイノリティインナーリングからの都市論は可能か? (2001年度人文地理学会、大会特別研究発表)」からの引用である。



萩まちだより

発行：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社



鳥の目さん

なるほど！このへんは
日本一だらけや。
連載が楽しみやなあ！



いきなりチャレンジショップ
ならぬチャレンジページです。
大阪市立大学(水内ゼミ)の
学生さんたちがゲスト編集者
で～す。

地元の日本一 シリーズ その①

鉄道

◆南海電車は日本最古の私鉄で1885年生まれの132歳◆JRも大阪鉄道として1889年に土盛り高架で建設◆現役で最高齢の電車1928年生まれ89歳の阪堺トラム◆日本で2番目に古い地下鉄も1938年に駅は開業

新今宮駅：老舗の鉄道はかつては城壁、今は交通の便の結節点



▲1960年すぎのまだ新今宮駅がないころの光景。
南海の複々線高架は1939年に完成。実はこれも私鉄では
日本最古のひとつ複々線高架。JRはまだ国鉄時代で蒸気機関車
が走り、環状線はまだ走っていない。(桐井啓智氏撮影)



▲1966年に南海新今宮駅が開業され、当時の国鉄と
乗り換えが可能となった。南海の駅と国鉄への乗り換え
通路の建設途上の写真である。手前は、まだ木造2階の
簡易宿泊街である。手前左側は、1971年には、再開業され、
あいりん総合センターなどに変貌する。(上畑恵宜撮影 大阪市立大学都市研究プラザ所蔵)



▲新今宮駅の地下の動物園前駅の、1938年
開業当時の写真である。動物の壁面は今でも
デザインが継承されている。
(大阪市交通局所蔵)



▲難波駅を発車した蒸気機関車が
牽引する南海鉄道。松林のところは
現在のなんばパークスである。
(上田貞治郎写真コレクション)

当時の生活者の
気持ちを想像して
みると楽しい。



虫の目さん



▲オリジナルは緑の車両が、1928年生まれ。
非冷房車なので、夏季は運行されない。

歴史ある鉄道は城壁のように地域を画する。
高架の壁や、バリアフルな新今宮駅を探索しよう

鉄道がこれだけ多いのに、中心の新今宮駅が完成したのは
1966年であり、それまでは多くの高架の壁が、駅の南側を
隔離していた。乗り換え口のコンコースは、ビルの5階の
高さにあり、建設当時はこのへんで最も高い建物の一つで
あった。壁のほうは現在、ウォールアートに使われたり、
公園になったりしている。またレンガ積みのトンネルなど、
鉄道遺跡としても見どころも多い。

日本一古い電車の走る阪堺電車で
日本の昭和の下町を満喫しよう

1928年製造の日常運行する最古の電車が走って
いる。大阪市では唯一のトラムである。沿線の
北天下茶屋駅、天神ノ森駅などには1930年代の
街並みが今でも残っている。日本ではようやく
トラムの再評価が進み、最新鋭車も導入された
が、この本線は経営的には苦戦しているの
で、利用して現地を体験してみよう。



萩まちだより

発行：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社

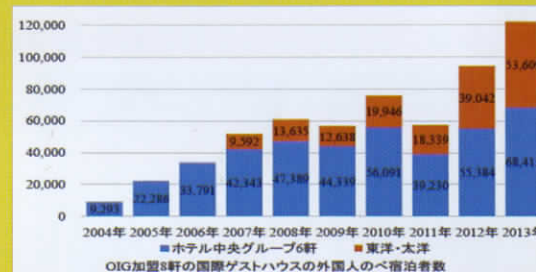
もう一つの集客の磁場 ～太子・山王界限～



先月に続いて、このページは
大阪市立大学水内ゼミ
アイセック(大阪市大委員会)
のみなさんがゲスト編集者です。

地元の日本一 シリーズ その②

①日本一の日雇い労働者の街・釜ヶ崎 ②往時東洋一のアミューズメント
エリア・新世界 ③大正時代開発の日本最大の新地・飛田遊郭。
これらを結ぶ三角地帯が今は、日本一のゲストハウス街に急成長



バンコクのバックパッカーの街、カオサンに魅せられて
若い簡易宿泊所経営者が、2004年から国際集客にかじを
切った。左グラフのように宿泊者は激増。低廉な料金で、
日本一の外国人宿泊者の街に急成長。今やShin-lmamiyaの
呼び名がトレンドに。

太子の簡易宿泊所の変貌



↑



2階建ての木造簡易宿所から(1964年)、1980年
前後に3階個室の中層簡易宿所に変貌(1989年)。
そして現在の外国人旅行者や日本人向けの日本
最大規模のゲストハウス街になった。
(上畑恵宜氏撮影)



1948年米軍撮影の空中写真

日本一のお笑いの街をささえたんのじ村



左の空中写真で、西の太子方面は戦災に部分的
に遭い、東の旧天王寺村の山王方面は空襲を免
れ、昔の建物と路地が残ったことがわかる。
こうした山王地区に多くの芸人が住んだことの
場所の記憶を顕彰する上方芸人の碑がある。

新地・遊郭は戦前の都市開発の牽引役



1912年の大火で
焼失した難波新地
が、この飛田に移転。
下の開発前の写真(1915年)
は、新世界方面まで
田んぼが広がっていた。
1916年に開業した日本
最大級の公娯遊郭飛田
に、霞町、動物園前、
天王寺/阿倍野橋から
商店街が伸展し、
飛田までにぎやかな
市街を形成した。
(加藤政洋氏所蔵)



釜ヶ崎に隣接して

(上写真) 通天閣をバックに当時の太子交差
点/南霞町駅前、日雇労働者の青空市場でも
あり、日本一の日雇労働者の寄りの市場の原形
であった。
(下写真) 近くに近鉄百貨店が見えるこの太子
の街に、日本で唯一の日雇労働者のための
「福祉事務所」的機関が、愛隣会館の名称で
1962年に大阪市により建設された。長らく市立
更生相談所と呼ばれ、現在は西成区保健福祉
センター分館となっている。
(いずれも1964年、上畑恵宜氏撮影)



太子交差点





vol. 06

萩まちだより

発行：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社

地元の日本一シリーズ その③

今月は周辺地域に
視野を広げるピー

大阪第3のターミナルも
日本一が満載
阿部野橋駅・天王寺駅界隈

大阪市立大学水内ゼミ・
アイセック(大阪市立大学
委員会)のみなさんによる
ゲスト編集はまだ続きます。

- ①日本一高くて大きい百貨店ハルカス ②日本最大規模の私鉄の近鉄
③長らく日本一快速の阪和電車 ④戦前日本一壮麗な地下鉄天王寺駅
⑤日本最古の仏教寺院四天王寺と古い街道



大鉄 阿部野橋駅(1929年)「近鉄資料館」より



大鉄百貨店(1938年)「近鉄資料館」より

日本一の私鉄、近鉄によって行われた街づくり

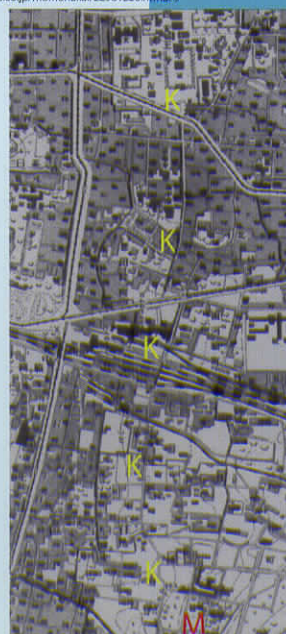


近畿日本鉄道、通称近鉄は日本最大規模の私鉄だ。京都や奈良の
国宝・文化財にアクセスできる移動手段を提供する。それだけでは
なく、近鉄は街づくりにも深く関わっている。バブル時代に虫食
い状態になった土地をうまく利用し、Hoop, andなどの民主導の再開
発を行った。ハルカスから少し離れると、路地や地蔵が残っている。
昔ながらの路地から超高層ビルを見上げる不思議な空間である。

歴史と現代性が共存するまち、
古来の街道や邸宅、高層マンション

最近建て替えられた近鉄百貨店は鉄道の駅の
真上に百貨店があるという独特の造りだ。大阪
の旧街道である庚申街道(旧)を遮るように建て
られた百貨店ではあるが、街道を貫くために百
貨店の2階が遊歩道として整備されている。歴史
に思いを馳せながら、ここを歩いて四天王寺ま
での参道を歩いてみよう。

右写真→
鉄道ターミナルに近い
阿倍野の奥深さは、
地図上Mの松崎町
のお屋敷街の存在に
あろう。
かつての大邸宅は
部分的にマンションに
変貌。
(下写真は(株)クラブコス
メティックス所蔵)



1万分の1地形図「大阪南部」1929年

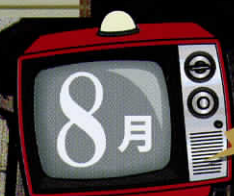
建設当時最大規模の民衆駅ビル

↑1889年に大阪鉄道が(現在のJR大和路線)天王寺駅を
開設。1895年に現在の環状線である城東線が南進して
天王寺駅を終着駅に。1929年には和歌山と結ぶ阪和電
鉄が、大阪側のターミナル駅に。1933年に、日本一駿足
の高速電車が登場した。JR西日本管内、大阪、京都に次ぎ、
第3位の乗客数を誇る。

↑1962年竣工の当時の天王寺民衆駅ビルと、
1938年完成の戦後復興した近鉄百貨店
出典:blogs.yahoo.co.jp/momonaka/22981220.htmlより



上は
1938年に開業した3線式で照明の印象的な天王寺駅。
下は1937年の旭町付近の工事風景(大阪市交通局所蔵)



vol. 07

萩まちだより

発行：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社

地元の日本一シリーズ その④

大阪市立大学水内ゼミ・
アイセック(大学委員会)の
みなさんによるゲスト編集は
まだまだ続きます。

かつての東洋一の娯楽場
新世界と、東洋一高い通天閣

- ①明治期日本の最大規模の博覧会場 ②跡地に東洋一の
娯楽場新世界 ③そのシンボルに東洋一高い通天閣



なぜ新世界は今の場
所に？絵図から探る

大坂城下町南郊の今宮村、
木津村、天王寺村では、
戎さん、大黒さん、四天王
寺さん、一心寺さんなど、
集客力ある寺社が、紀州
街道(緑色)や、木津と四
天王寺を結ぶ逢坂など(茶
色)と結ばれていた。日本橋
に連なる長町木賃宿街の南
限の可能性のある地に、新
世界は後に登場する。

(増補改正摂津大阪地図、1806年より)

右写真は、ネギ畑や鳥の戯れるのどかな
近郊の畑地の向こうに、今宮商業倶楽部
が登場したころの、現在の通天閣あた
りから北東方面をみた光景。1890年代
の撮影と思われる。(上田貞治郎写真アーカイブより)

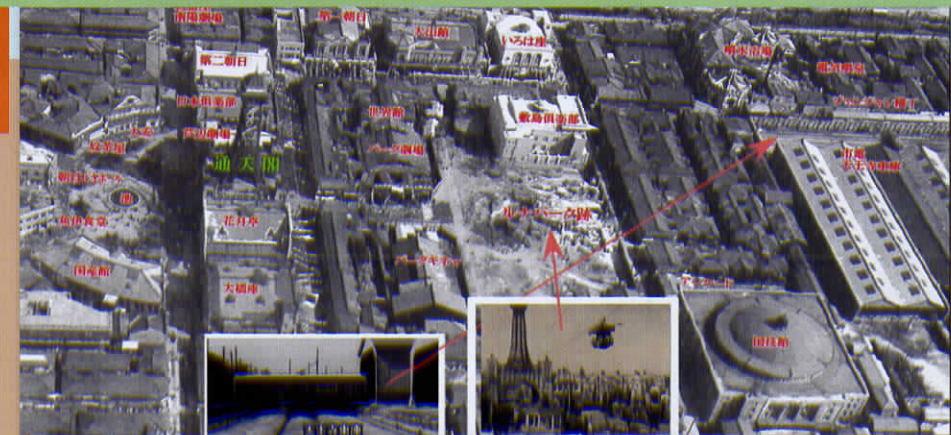


今宮商業倶楽部が起爆剤、
後に第5回内国博覧会会場
として大拡張

左図、左写真のように、1889年に
今の恵美須町交差点東の一角に、
アミューズメントセンターが今宮
商業倶楽部として登場した。焼失
後の跡地を、赤色網掛けのエリア
として、南方及び天王寺方面に
1897年からの市の南境(関西鉄道)
まで大拡張し、第5回内国博覧会
(1903年)の敷地となった。跡地
は直後の日露戦争時に陸軍が使用し、
再開発という形で、1911年に新世
界としてオープンした。

人偽的に創った昭和レトロ
ではなく、本物の昭和レトロ
を感じることができる新世界

アナクロとマッチョ的な雰囲気は
昭和時代を代弁するものである。
動かない電器製品を集めた昭和
博物館は数多くあるが、生きてい
る昭和博物館は新世界である。
長らくの開発の停滞が生んだ新
世界のマッチョ的な雰囲気は、最
近開発されているあべの地区と
対照的である。



昭和初期に撮影されたと思われる、新世界上空からの写真である。ルナパークが解体された当時の様子がよくわかる。
日本で最初のロープウェイは撤去された。多くの劇場、映画館、浴場、そして国技館、市電車庫がさながらテーマ
パークのように詰め込まれている。ジャンジャン横丁は南の飛田方面に人の流れをいざなった。(上田貞治郎写真アーカイブより)